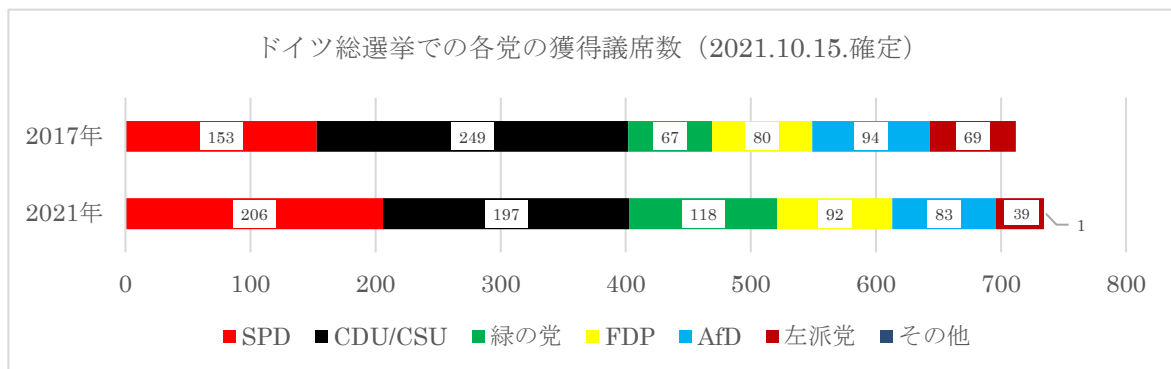


ドイツ総選挙、連立新政権の課題

◆引退表明のメルケル所属の与党が大敗、連立のもう一つの与党SPDが第一党に

2021年9月26日、ドイツで連邦議会選挙（総選挙）が行われた。今回は、16年間政権を率いてきたメルケル首相が政界引退を表明していたため、欧州のリーダーの一翼を担うドイツの次期首相を決める選挙戦としても注目された。

ドイツでは、一党が過半数をとることがなく、連立政権が続いている。これまでは、中道右派でメルケル首相の属するキリスト教民主同盟・社会同盟の統一会派（CDU/CSU）と、中道左派の社会民主党（SPD）の大連立で政権を率いてきた。



今回の選挙で第一党となったのはSPDで、前回の17年より議席数を大きく増やし、ショルツ副首相は首相への意欲を見せた。一方、CDU/CSUは得票率が史上最低に沈んだ。環境政党の緑の党は、支持率が急増し第三党に躍進。産業界寄りの自由民主党（FDP）も支持を伸ばした。反難民を掲げて一時は勢いのあったドイツのための選択肢（AfD）は失速した。CDU/CSUは、メルケルの後継者が出馬した地方選でもSPDの新人に敗北するなど、一人負けと評されている。

◆高齢層が支持した二大政党、若年層が支持した緑の党

二大政党による大連立の組み合わせは今回有権者の評判が悪く、CDU/CSU、SPDそれぞれが、他党との連立を模索している。過激な言動もみられるAfDとの連立は拒否しているため検討されているのが、政党のシンボルカラーから「SPD（赤）・緑の党・FDP（黄）」の信号機連合、「CDU/CSU（黒）・緑の党・FDP」のジャマイカ（国旗の配色）連合だ。第三党と第四党がどちら側につくかで決まる構造だ。

二大政党が緑の党とFDPを取り込もうとしているのは、数合わせの意味だけではなく、若年層の取り込みが必須だからだ。二大政党を支持したのは高齢層だった。一方で緑の党は若者に限ると支持率がトップだった。FDPも若年層での支持率が高い。CDU/CSUとSPDはこのままではじり貧状態は確実で、大敗したCDUでは世代交代を図るため、国防相と経済相が比例区で得た議席を若手へ移譲する。

Infratest dimapの調査によると、70歳以上と24歳以下の層で政党の支持を比較すると、CDU/CSUでは、高齢層が38%の支持率に対し、若年層はわずか10%。SPDも高齢層は35%で若年層は15%だ。一方で緑の党は、高齢層は7%にとどまるが、若年層は23%の支持率。FDPも高齢層は8%で若年層は21%だった。

◆背景には環境問題、未曾有の洪水で気候変動問題も再認識

選挙前の世論調査で、有権者がコロナや難民より環境を重視している傾向がうかがえた。環境活動家グレタ・トゥーンベリ氏（18歳）は投票日直前、「1751年以降の累積二酸化炭素排出量で、ドイツは米中露に次ぎ世界で4番目に多い」と批判した。選挙戦で各政党が掲げた石炭火力発電の全廃時期は、CDU/CSUとSPDは2038年、緑の党は30年。カーボンニュートラルの達成時期もCDU/CSUとSPDが45年、緑の党は41年へ前倒しを表明した。グレタ世代の若年層で緑の党の支持が高い理由には、20年後や30年後の自分たちの未来に直結する気候変動問題がある。

ドイツでは7月に大雨による大洪水が発生し、多数の死傷者を出した。温暖化の影響を指摘する専門家の声もあり、危機意識が高まった。CDUが選挙戦で失速した原因の一つに、洪水被災地で大統領がお悔やみを述べている後ろで、CDUの首相候補ラシェット氏が同席者と大笑いしている映像が流れたことがある。事態の深刻さを理解していない姿に、有権者は失望した。

◆今の生活を守るか、次世代につなぐか、割れる意見に財源確保の問題も

電通と電通総研が7月に12カ国を対象に実施した「サステナブル・ライフスタイル意識調査」によると、「今の生活を守るか、次世代につなぐか」という設問に、ドイツは「今の生活を守る」が50.6%で半々に割れた。コロナの影響で7年ぶりに赤字財政に転落したなか、経済を立て直しつつ、次世代に持続可能な生活環境をつなぐため、財源確保も含め、新政権の力量が求められる。【赤山英子】